資料コーナー

2007 年（平成19 年）の世界の天候（速報）
～主な異常気象と気象災害～

気象庁 2007 年（平成 19 年）の世界の天候（速報）

http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/index.html より抜粋

- シベリア、ヨーロッパで異常高温が多発。
- 主な気象災害は、アジア南部のサイクロン、米国やオーストラリアの干ばつなど。

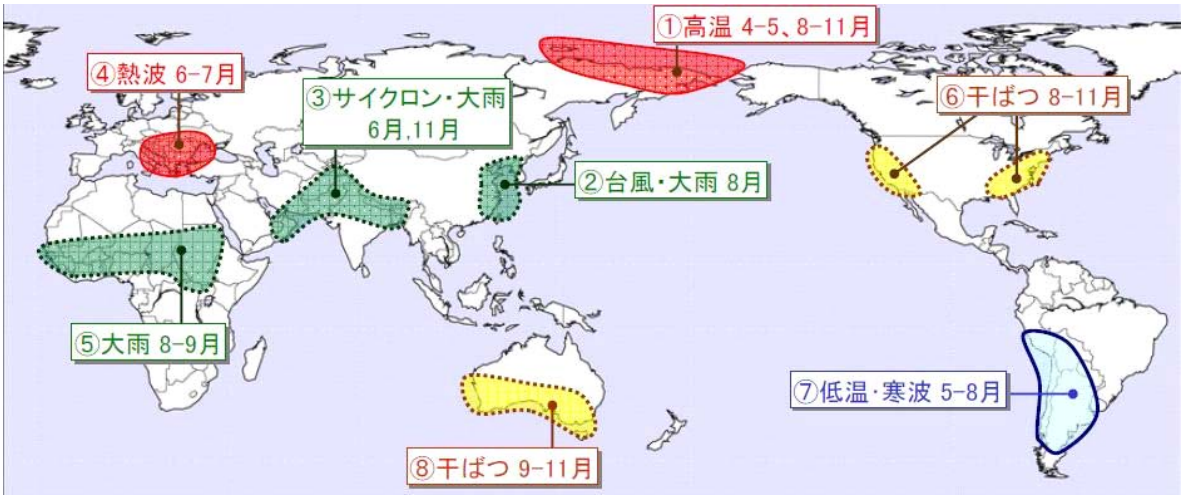

図１．世界の主な異常気象・気象災害（2007 年（平成19 年）１月～11 月）
異常気象や気象災害のうち、規模や被害が比較的大きかったものについて、
おおよその地域・時期を示した。図中の番号は概況文の番号と対応している。

①東シベリアの高温（4～5 月、8～11 月）：年を通してほとんどの月で気温が平年より高く、異常高温が多発した。年平均気温は平年より3℃以上高くなった。
②朝鮮半島～中国の台風・大雨（8 月）：黄海周辺に南よりの暖湿流が入ったほか、台風が相次いで中国南東部に接近･上陸した影響で、朝鮮半島で600 人以上、華北や華南で合わせて100 人以上の死者が伝えられた。
③アジア南部のサイクロン・大雨（6 月、11 月）： 6 月にはサイクロン「ゴヌ」と「イエミン」およびモンスーンの大雨により、オマーンやパキスタンなどで合せて300 人以上の死者が伝えられたほか、11 月にはサイクロン「シドル」によりバングラデシュで3 千人以上の死者が伝えられた。
④ヨーロッパ南東部の熱波（6～7 月）：南よりの暖かい風が吹き込んだことや晴れた日が続いたことにより、ブルガリアやギリシャなど各地で最高気温40℃以上の日が続き、熱波による死者や森林火災の被害が伝えられた。
⑤アフリカ熱帯域の大雨（7～9 月）：モンスーンの大雨によりアフリカ中西部から東部の多くの地域で被害が伝えられた。7 月から9 月の各月において各地で平年の2 倍以上の降水量となった。
⑥米国東部･西部の干ばつ（通年）：米国東部では少雨となる月が多く、深刻な干ばつの被害が伝えられた。米国西部でも少雨傾向が続き、大規模な森林火災の被害が伝えられた。
⑦アルゼンチン周辺の低温・寒波（5～8 月）：ラニーニャ現象等の影響により異常低温が継続した。アルゼンチン北部では5～8 月の4ヶ月平均気温が平年より3℃以上低くなり、寒波による死者も伝えられた。
⑧オーストラリア南部の干ばつ（7～10 月）：年前半は多雨傾向の月もあったが、7 月以降に少雨傾向となり、6 年以上続く干ばつの被害が伝えられた。

堂元 貴史（㈱ 東芝）
（平成20年3月31日受付）